PART 1 全体の調査結果

第4章 子育て支援

邵　勤風

第1節 子どもの預け先

母親が仕事以外で家を空けるとき、子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）が「いる（ある）」と回答した母親の割合では、東京・北京・上海・台北は８割前後に対し、ソウルは６割である。また実際子どもの預け先について、５都市に共通しているのは身内に子どもを預ける割合が高いことである。

子どもの預け先の有無

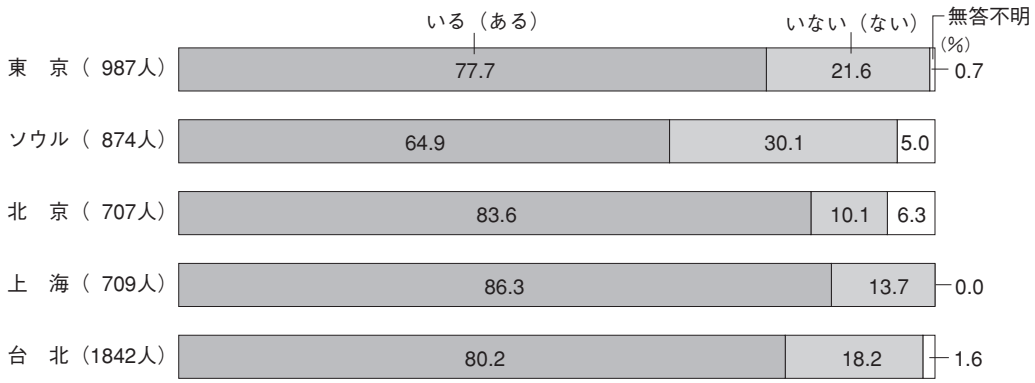
仕事以外で家を空けるとき、子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）がいる（ある）かをたずねてみた。母親の回答のみを抽出し､分析した結果は**図４－１－１**である。

子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）が「いる（ある）」と回答した母親の比率をみると、東京は77.7%であるのに対して、上海は86.3%、北京は83.6%、台北は80.2%、ソウルは64.9%である。5都市の中で、最も比率が高いのは上海である。

次に、母親の就業状況の違いによる差がみられるかどうかをみてみたい（**図４－１－２**）。北京と上海は７割の母親が常勤者で、パートタイムや専業主婦のサンプル数が少ないため、就業状況別で分析するにはあまり適切でないと考え、ここでは、北京と上海を除き、東京・ソウル・台北の３都市のみをとりあげる。この図から次の３つのことがわかる。

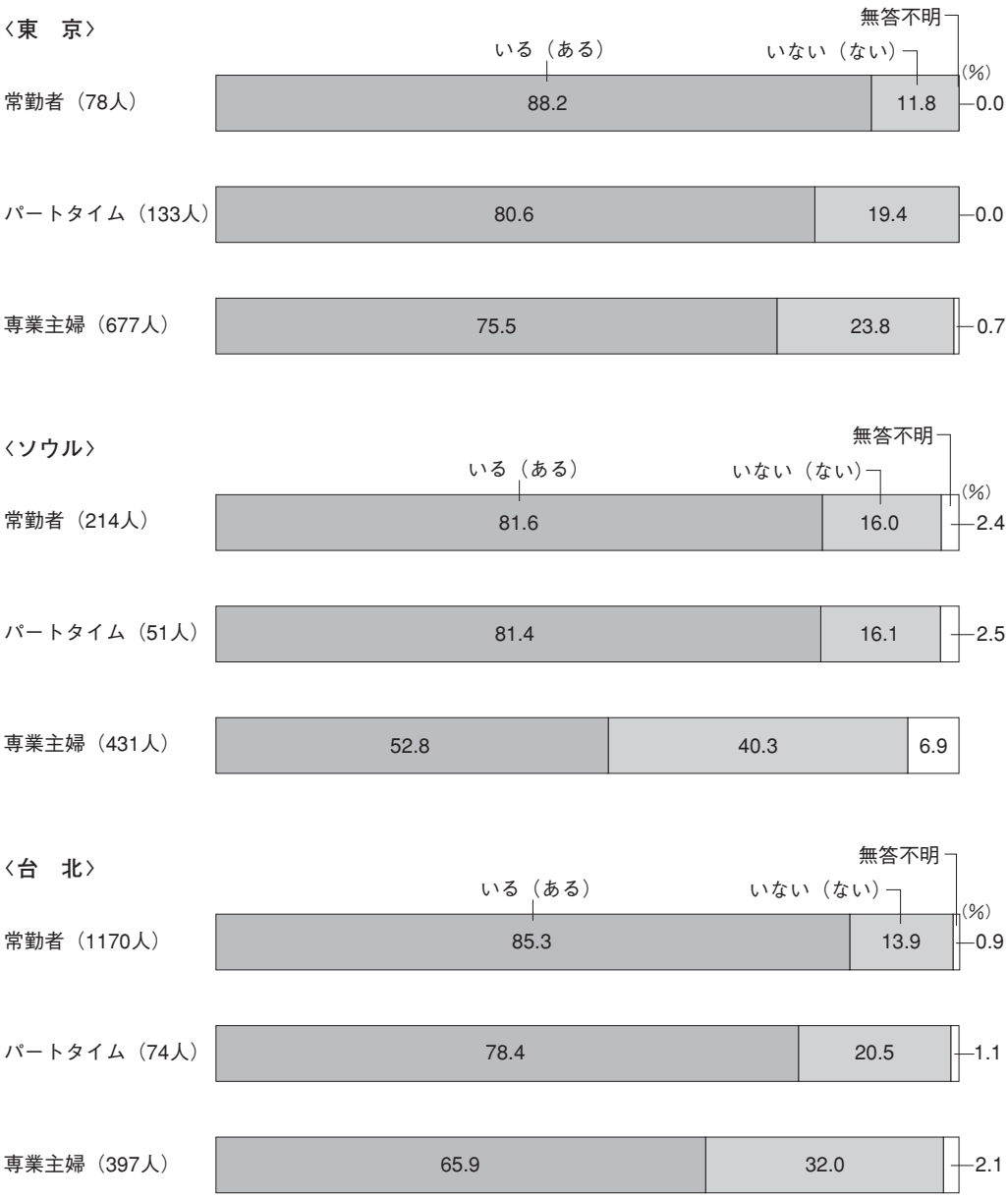
１つ目は、３都市とも、８割以上の常勤者が子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）が「いる（ある）」と回答したこと。２つ目は、専業主婦より働いている母親（「常勤者」「パートタイム」）のほうが子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）が「いる（ある）」と回答した比率が高いこと。３つ目は、常勤者と専業主婦が「いる（ある）」と回答した比率の差に注目すると、ソウルで常勤者と専業主婦との比率の差が28.8ポイントで、３都市の中で最も大きいことである（東京12.7ポイント差、台北19.4ポイント差）。

■図４－１－１　子どもの預け先



注）母親の回答のみ分析。

■図４－１－２　子どもの預け先（母親の就業状況別）



注１）母親の回答のみ分析。
注２）母親の就業状況について「フリー（在宅ワークを含む）」「産休、育休中や休職中」「その他」および無答不明の人は図から省略した。

子どもの面倒を見てくれる人（機関・サービス）

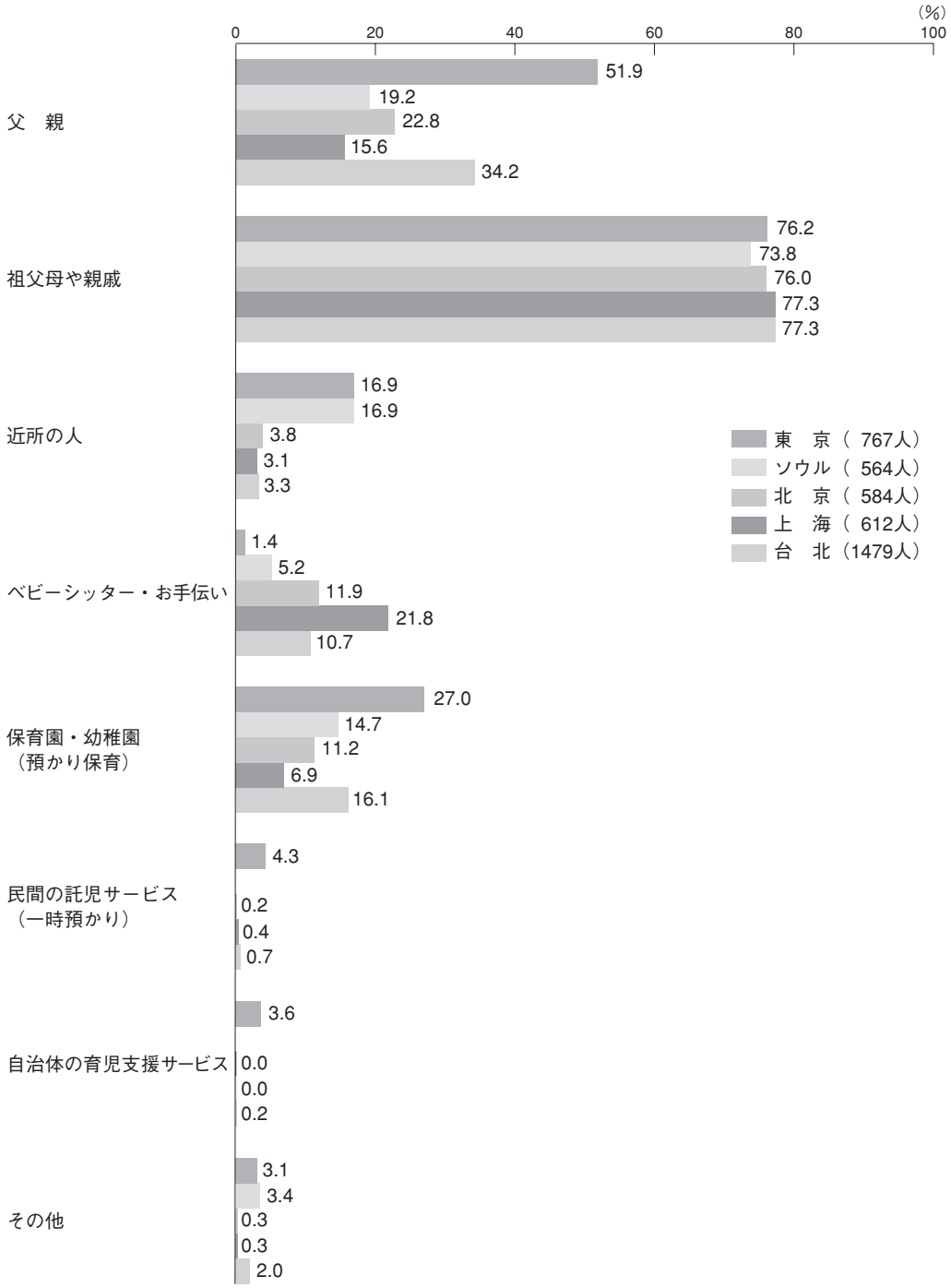
つづいて、実際どういう人（機関・サービス）に子どもを預けるのかについてみてみたい（**図4－1－3**）。

どの都市でも第1位に「祖父母や親戚」があがり、7割以上が選択している。また、「父親」の比率をみると、東京は51.9％で、「祖父母や親戚」に次ぐ第2位となっている。台北は東京ほどではないが、3割で、ソウル、北京、上海は1～2割の回答である。5都市を通じて、身内に子どもを預ける割合が高いという傾向がみられる。

では、東京の「父親」の比率が高いことをどのようにみればよいだろうか。第3章で述べたように、東京の父親はほかの都市の父親よりも、家事・育児にかかわっているとは言えないことから、父親が子育てに協力的で、子どもの面倒をよく見るというより、母親が家を空けるとき、子どもを預けられる先が限られているという見方や、東京はほかの都市ほど、夫婦で外出することが多くないためといった解釈もできる。

また、上海では、「ベビーシッター・お手伝い」と回答した比率が21.8％で、「父親」（15.6％）よりも高い。北京、台北の回答も1割であるのに対して、東京はわずか1.4％である。上海、北京、台北では東京より「ベビーシッター・お手伝い」を活用していることがわかる。

■図４－１－３　子どもを預ける相手



注１）複数回答。
注２）面倒を見てくれる人が「いる（ある）」と回答した母親のみ分析。
注３）「保育園・幼稚園（預かり保育）」について、ソウルでは「ノリバン・保育園」、北京、上海、台北では「幼稚園・託児所の一時託児」となっている。
注４）「民間の託児サービス（一時預かり）」「自治体の育児支援サービス」について、ソウルではたずねていない。